



+R 未来を生み出す人になる。

立命館大学

# 立命化友会ニュース

## 近況報告

会長

白井 総

（昭和五十六年

化学科卒）



会員の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。また、日ごろは立命化友会の運営につきまして格別のご支援・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

今回は私の勤務先を紹介いたします。会社は創業から今年で五十周年を迎えますが、事業としては、プリント配線板事業と検査機ソリューション事業の二つがあり、事業拠点は日本と中国で世界各地へ製品とサービスを提供しております。主力商品である「プリント配線板」は半導体・抵抗・コンデンサなどの

電子部品を搭載し、その導体間を配線で接続する役割を果たしております。通常は様々な電子機器内に組み込まれていますので皆様が普段あまり目にするとは無いと思いますが、エアコン、テレビ、照明器具、通信事務機、自動車、太陽光発電、防犯器具など様々な商品に組み込まれています。

プリント配線板業界全体の生産規模ですが国内は減少しながらも海外生産の伸びが大きいく年間では約六兆円で数年後には七兆円規模に拡大する見込みです。弊社の顧客先は国内大手メーカーを中心に六つの市場分野（自動車・家電製品・業務用電子機器・通信事務機・映像関連・娯楽関連）に製品を提供し、特定業種や分野に偏ることなく安定した受注の確保を目指しています。

その中でも売上高が大きいのが自動車関連で、約三割を占めています。弊社から取引先の部品メーカーを経て世界の自動車メーカーに供給しております。車はエンジンやメーター・スイッチ類など各装置がコン

ピュータ制御されており、より安全性能を高めるため今後もプリント配線板の用途が拡大する見込みです。

その他で今後伸びが期待される分野としては、LED照明での世界的な広がりや、スマート家電関連では洗濯機、冷蔵庫、エアコン、炊飯器等がインターネットにつながる事での需要拡大が見込まれます。またロボット産業分野では人件費抑制策として様々な産業分野でのロボット活用が見込まれ、自動車産業に次ぐ基幹産業になると期待されています。

一方、プリント配線板以外の分野では、「検査機ソリューション事業」があります。これはこれまで人が行っていたプリント配線板の外観検査を機械化することで検査工程の進化を提案しプリント配線板全体の品質向上に貢献しております。

この事業では世界のプリント配線板メーカー上位五十社の中、約六割の企業が弊社の検査機を導入しています。今後は人工知能を組み込み、検査精度の向上を目指します。また、基板関連

の新商品として取り組んでおります「高透明性フレキシブル基板」は従来品ではできない発色、アート演出で広告業界への採用拡大を目指しております。

これからも同業他社と競争に打ち勝ち取引先から求められる高い品質レベルに対応できる企業だけが生き残れる状況は続くものと思われまます。

会社の方針としてプリント配線板事業では、付加価値の高い製品群の販売比率の拡大、高品質レベルに対応できる生産および品質保証体制の強化、競争力のある製造原価の追求、少量多品種や試作短納期品の生産体制の強化、独自性のある商品と技術開発を進めています。

検査機ソリューション事業では検査装置の高速化やブランド力の向上、プリント配線板メーカーの生産性や品質向上につながるソリューションの提案の拡充を図っています。以上簡単ですが会社の事業内容を紹介させていただきます。

最後になりましたが皆様方のご健康ご多幸をお祈り申し上げます。

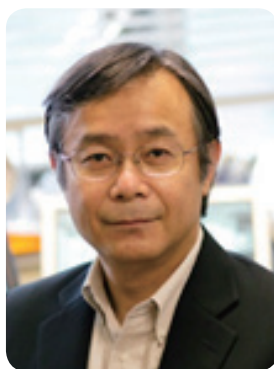
# 薬学部の 近況報告

全国トップクラスの

薬学部、安定飛行？

薬学部長

今村 信孝



二〇一五年度のノーベル賞・医学生理学賞には、日本人研究者が選ばれました。日本の薬学のレベルの高さを改めて感じられた方も多かったかと思います。受賞者の大村先生は、一つの化合物で二億人を救ったと言われています。世界中の多くの人々を研究で救える創薬の魅力を示した素晴らしい例ではありますが、残念ながら、高校生にはなかなか理解できないようで、先生のお膝元の北里大学でも創薬系学科の受験生急増へとは繋がらなかったようです。それでも、先生の美術品収集や故郷に作られた温泉施設をテ

レビが取り上げ、創薬研究で富が得られるとの印象が、創薬を志す人が増えるのに少しでもプラスになればと願っています。今春の入試では、本学創薬学科は相変わらず苦戦した春となりました。

十六年春、薬学部で三回目となる卒業式は実に晴れやかで、楽しい卒業式となりました。今春、卒業した薬学科三期生は薬剤師国家試験合格率が九十五%を超え、ほぼ全員が合格しただけに笑顔が溢れる卒業式で、学生そして教職員一同ともに喜びを噛みしめました。国家試験問題の難易度自体は、難化傾向といわれた昨年、一昨年と同程度のものでしたが、厳しい内容の試験ということで、周到に受験準備をした結果の好成績だと思っています。全国的にも一気に合格率が上がりました。一方で、私立薬学部の合格率ランキング争いは、直接、受験生確保に繋がっていることから、熾烈を極め、特に新設の定員割れを起こしている大学では、なりふり構わぬ方法で合格率を良く見せているようです。卒業時の学生数が、最終学年に進級した時の半数にも満たない、即ち国試に受かる学生だけを卒業させるという方法は常套化しており、さらに卒業生の国家試験浪人にまで同様な働きかけを行って受験させずに、ひたすら合格率アップを目指す大学が出てきています。立命館は、常識的な範囲で卒業の判断を行って、これだけの結果を得ることが出来ました。

この状態が安定して続くかは、在校生の努力次第、在校生の鍛え方次第ということになるでしょう。学生にとっては、一度合格してしまえば、苦しくとも楽しい学生時代の思い出にすぎませんが、送り出す大学教職員には、毎年々々果てしなく続くゴールの無い、しかし学部存続をかけた歩みです。国家試験の内容は、以前と比較すると随分と難しくなっています。現六回生は、今春の先輩の好成績に感わされ、楽に合格できる試験と氣を緩めたのか、初夏にあった全国模試での結果は目を覆いたくなるものでした。薬学科の学生は夏に卒論も終わり、今年度後半は例年にも増して試験対策勉強に集中して貰いたいと思っています。学生達の追い込みに期待しつつ、激を飛ばさざるを得ない状況です。

薬剤師を取り巻く環境は、巷を賑わした「かかりつけ薬局」構想に表れているように変革を求められています。医療人としての社会的要求は高まる一方で、二〇一五年からの全国共通薬学教育コアカリキュラム改訂版でも、さらに教育内容が濃く、教育目標も高いものになっています。本学薬学科の教育は、医療人として求められている様々な技能、態度も、時代を先取りした形で教育してきました。しかし、景気上昇の気運とともに、学費が高く修業年限の長い薬学は敬遠され気味で、受験志願者が全国的に漸減しているようです。歴史の浅い私大薬学部、

薬科大学では、恒常的に定員割れに追い込まれ、その結果、定員を削減した大学が複数あります。さらに今回のコアカリキュラム改訂で、五回生時の実務実習では附属病院を持つ大学が圧倒的に有利になるなど、多くの薬系大学にとって厳しい状況にあります。薬剤師養成を掲げる薬学六年生課程に、少しづつ変化が忍び寄っているように思います。新設の本学薬学部は、国家試験では好成績を残しているものの、卒業生の数も少なく、まだまだ知名度は高いものではありません。国家試験合格率トップクラスを維持できるかの近道は、入学時にいかに優秀者層を取り込めるかにかかっていると考えており、苦戦する創薬科学科とともに高校生への広報活動を強化しています。皆様方におかれましても、是非、母校の薬学部の存在を、折りに触れて広めて頂けますようお願いいたします。

来春、卒業を迎える学生は、私が学部長就任の最初の仕事として、入学時の挨拶をした学生達です。学部長としての最後の仕事は、彼らへの送る言葉となります。是非、今春と同じように、笑顔が溢れる楽しい卒業式としたいと切に願っています。さて、皆様方には、これまでご心配をおかけしたかと思いますが、薬学部も安定飛行まであと一步という所まで来たと感じています。これから、どうぞ薬学部へのご支援、ご指導ご鞭撻をお願いいたします。



# 生命科学部の 近況報告

生命科学部長

小島 一男



生命科学部長・大学院生命科学研究所長の小島でございます。本学理工学部化学科卒で、立命化友会では企画運営委員会副委員長を務めております。立命化友会の皆様には、当学部・研究科の教育研究にご支援・ご協力をいただき、感謝申し上げます。

二〇二〇年度までの立命館学園の構想であるR二〇二〇における本学の後半五年の基本課題十項目が策定され、重点的な基本課題四項目は、「学びの立命館モデル」の構築、教育と学びの質転換、大学院改革の推進、特色あふれるグローバル研究大学、立命館大学グローバル・イニシアティブの推進、です。要は、学部・大学院でグローバル化を推進しつつ、学部教育を一段と充実させ、大学院改革に

より研究大学を目指し、内外に選ばれる大学になることであると言えます。本学は文部科学省「スーパードグローバル大学創成支援事業」を推進中です。

二〇一六年度、薬学部から教授三名が生命科学部に移籍し、新たに准教授二名、任期制講師二名、助教四名を生命科学部に迎えました。当学部・研究科では二〇一七年度にカリキュラム改革を実施して教育内容を改善する予定です。施設面では、中心棟「バイオリンク」に隣接するリンクスクエア二階に学部事務局・会議室・演習室等が置かれ、事務室前のスペースは広くきれいでポスター発表等に利用されています。

二〇一七年度以降、生命科学部の入学定員は、応用化学科八〇→百十一、生物工学科八十→八十六、生命情報学科と生命医科学科それぞれ六十→六十四、と増加します。応用化学科については、学部将来構想における応用化学科生命系化学領域の充実をともなう純増といわゆる実員の定員化による増で、他三学科は後者のみによる増です。学部将来構想の議論は鋭意継続中です。このような学部改革により、生命科学部の入試および進路課題を改善していかねばなりません。なお、関連企画として、地元の三市の教育委員会・中学校と生命科学部とで「教育と生命科学シンポジウム」を本年九月に開催し、理科教育に関する情報交換、ネットワーク構築等を行いました。

本学大学院政策により、二〇一七年度以降、生命科学研究科では、博士課程前期課程授業料は現行より四十三万七千八百円減額の年額百十三万七千二百円となり、同時に年三十万円給付の成績優秀者奨学金を設けます。実はこの奨学金を受給しても現行のA給付奨学金受給者と比べる実質納付額（授業料－奨学金給付額）は一万二千二百円値上がりします。この値上がり部分はありますが、全体としてかなりの授業料減となり、当研究科前期課程（定員百五十名）の入学者増に繋がりたいものです。なお同後期課程（定員十五名）については、現行授業料が低額で奨学金制度もあるため、同様に入学者が増えてほしいと考えています。大学院生が増えれば、研究力が向上します。この向上には国際共著論文数、高インパクトファクターのジャーナル論文数、科研費採択件数等の増加も求められます。生命科学部の「二〇一五年年報」に書きましたように、修士論文データや研究成果を積極的にジャーナル論文化することが必要と思われます。別の話題ですが、理工学、情報理工学、生命科学、薬学の理系四研究科が共同で、理系異分野融合・共同研究プロジェクトに関する構想を学内に提出し採択されました。

グローバル化・国際化についてまず、生命科学部では薬学部と共に、英語の正課授業「プロジェクト発信型英語プログラム」と米国カリフォルニア大学デービス校への

独自の留学プログラムを実施しています。次に本年三月に初めて生命科学部国際交流会議を開催し、当研究科の国費留学生特別プログラムの対象大学であるタイのカセサート大学・コンケン大学・チェンマイ大学、およびインドネシアのブラビジャヤ大学の四大学に加えインド工科大学ハイデラバード校と今後の教育研究における連携について議論しました。この会議が契機となり、インド工科大学の学生一名が本学部の研究室で約二ヶ月間研究しています。本学と米国イリノイ・カレッジとの交流ですが今年で三十年となります。本年五月から六月に、同カレッジの教員三名と学生八名が生命科学部・研究科を訪れ、共同のワークショップとポスターセッションなどを行いました。また同カレッジの学生二名が本学部の研究室で二ヶ月間研究しています。

生命科学部提案の立同関関の「関西四私大生命科学シンポジウム」は4年間続き、本年六月に懇談会を本学部主催で行い、今後は実質的な交流促進を目的に、化学系も取り込んで生命・化学系の研究紹介や研究交流を中心に行っていくことになりました。

最後に、生命科学部は二〇一八年三月末日に設立十年を迎えますので、薬学部と合同で十周年記念行事を開催する予定です。今後とも生命科学部と生命科学研究科が各方面で選ばれて行くよう立命化友会の皆様のさらなるご援助をいただきたく何卒よろしくお願い申し上げます。

# 外国留学・外国出張で学んだ

## 異文化について

### フランスを中心に



中村 尚武

(昭和四十一年化学科卒)

皆さんは「注文の多い料理店」という

本をご存じだろうか？題名からするとこの作品の内容は、お客さんからの注文が多く、店主がテンヤワンヤになるほどよく流る料理店の話と思われるのだが、実際はそうではない。実は、お客さんに対する店主の注文が多い、つまり、店主がお客に対してあれこれ多くの注文をつける料理店の話である。

今回のセミナーも、店主即ち主催者からお客即ち講師への注文が非常に多く、まるで「注文の多い料理店」状態であった。当初から、「あれを喋れ」、「写真を見せよ」、「異文化に触れよ」、「研究成果を話せ」、「失敗談を紹介せよ」などと注文の山がきた。ついには、変な味付けで



アプシンベル神殿

さて、講演では、最初に、これまでに訪問した三十五ヶ国で撮った写真の一部

調理され、食べられそうになった！これを避けるため、とにかく全部の注文に応えようとしたので、本番ではまとまりのない講演になってしまった。講演を終えた今、「こんなはずではなかった」と少々後悔している。

をお見せした。パリなどで撮った定番の他、なるべく珍しい写真をといることで、インドのアジャンタ遺跡の壁画、エジプトのアプシンベル神殿、ポルトガルのロカ岬、ミラノ（伊）の「最後の晩餐」修復中の写真などを映写した。

次いで、留学先として、初めて長期滞在したグルノーブル原子力研究所、客員教授を務め、また、院生交換プログラムで何度も訪れたストラスブール大学などを紹介した。つづいて、訪問先で出会った、当時ストラスブール滞在中の宇宙飛行士、向井千秋さんとのツーショット、グルノーブル原子力研究所受け入れのピネリー博士夫妻などを写真と共に紹介した。

さらに、私が何回も外国留学や外国出張したので、「中村先生はどうも留学や出張を口実に世界中あちこち遊び歩いているらしい」という、根拠が乏しい噂を払拭するために、外国人との共著論文のいくつかを紹介した。

「異文化」というキーワードにかかわって、研究室で目にした日仏の文化の違いを述べた。例えば、研究室で出会えば皆さん握手して親しくあいさつを交わす。

もし、相手の手が作業のために水でぬれたり汚れたりしている場合は、手首を握る。また、数字の表記が日仏で異なり、「 $\cdot$ 」と「 $\cdot$ 」は逆である。たとえば、フランスでは円周率を3.14と表記し、千円

を¥1,000と書く。さらに、建物には日本の一階に相当する0階があるのでエレベーターに乗ると「0, 1, 2」といった具合に表示されるが、日本ではB1, 1, 2である。数字の並びとして、どこか変？

また、失敗談もいくつか紹介した。その一つ。グルノーブル原子力研究所で仕事を始めて間もなく、事務所に用事があつて電話した。フランス語で「私は〇〇さんと話したい」と言うと、最初に電話に出た女性が「Ne quittez pas（ヌキテパ）」と言ったので、私はすぐ電話を切った。フランス語では「Ne... pas」は典型的な否定の表現なので、相手が居ないと思ったからである。間もなく机の上の電話が鳴ったので出てみると、私が話したかった人が電話をかけてきたのだった。要件が終わってから私が「どうして私が電話したことが分かったの？」と聞くと彼は、「Ne quittez pas」と聞いて電話を切るのはこの研究所内には君しかいない。「Ne quittez pas」と言うのは「（電話を）切るな」という意味だ」となるほど否定形だ。

ついで、昨年夏の、巨匠クロード・モネゆかりの地を訪ねる北フランス・ノルマンディー旅行について話した。個人旅行をしたので、列車の乗り方などを紹介した。乗車予定の列車が入構するプラットフォームは発車十一十五分前に決まる。その番号



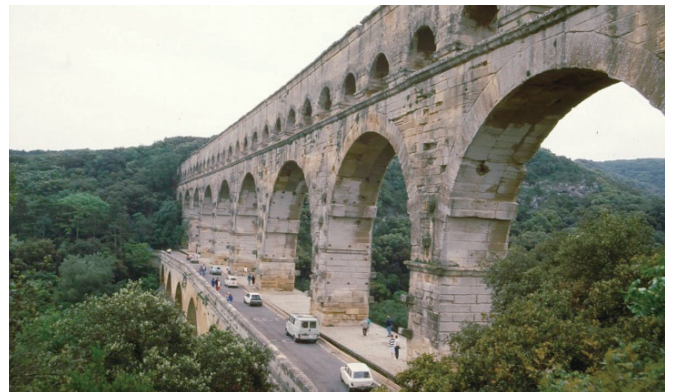
が掲示板に出るとみんな一斉にトランクを持って走り出す。整列乗車って、それ何？といったところだ。また、列車のドアは自分でボタンを押すことによって開閉させること、列車は何のアナウンスも無く発車することなどである。

旅行にまつわる失敗談も述べた。グルノーブル滞在中、南フランスの、スペインとの国境近くにある古都カルカソンヌへドライブしたときのこと。目的地への高速道路の出口を間違え、スペイン国境へ来てしまった。逆走できないので結局国境を越え、バルセロナで宿をとった。その地の動物園に当時「ホワイトゴリラ」



ホワイトゴリラ

がいて「パンダより珍しい」と言われていた。その貴重な写真もお見せした。また、オーストラリア、ブルームの海岸で拾った貝殻を家に持ち帰ったら、静止



ボンデュガール水道橋

しているはずの貝殻の一つが突然動きだし、現れたヤドカリの姿に腰を抜かした話もした。

この他、買い物の仕方、食事に招く、招かれる、社会生活における「自己責任」などにも触れた。「自己責任」といえば、南仏ボンデュガールでのこと。ローマ時代の水道橋が遺跡として残っている。その一方の端に「あなたはこの橋を渡って向こう岸に行けます」と書いてあって驚いた。その橋の上部は川面から四十九mの高さ。日本なら「渡るな」、「近づくな」などの看板が出ていただろう。フランスでは、もし、欄干もない幅三―四mのその橋の最上部を渡る時、途中で転落して

もそれは「自己責任」である。（さすがに最近では禁止とのこと。）

最後に、今後の少子化に伴って、我々の老後は外国人の世話になる可能性が高いと考えられる旨述べた。そのとき初めて異文化に接して慌てるのではなく、あらかじめ一定の理解をしておくことが望まれる。ボーダレス時代に備え、一言、「乾坤只一人」との言葉を紹介して本講演を締めくくった。

金曜日より

## 大西安夫氏（昭和三十七年化学科卒）のキセノンランプの開発と余生

奥野 年秀

（昭和三十七年化学科卒）

大西安夫氏は岡山県の県立総社高校出身であり、山下大二郎教授の研究室にて電気化学を専攻した。学生時代は、空手に熱を入れ二段を獲得すると共に、エレキギターを操るなど自由奔放な青春を過ごした、僕は金閣寺裏の下宿から、彼の住まいする妙心寺近辺の長屋に集まる学友達と囲碁やマージャンに青春を謳歌した。昭和三十七年二月には、京都市の

千本今出川通りの交差点に営業する、すき焼き屋で親しい学友と共に卒業コンパを行い、亀の甲羅に似たベンゼン核に因んで「カメノコ会」（大学OB会登録）を結成した、以後、不連続であるが、各人持ち回りで世話をする同窓会を開き現在も続いている。

僕は兵庫県立の工業試験所化学部や公害研究所に勤務していたため、神戸市須磨海岸に隣接する旅館で「カメノコ会」をお世話した時以来、十数年間も会わなかった。大西氏は、卒業後に、兵庫県姫路市に立地するウシオ電機（株）の電気事業部に就職し、同社研究所の上席研究員としてキセノンランプなどの不活性ガスを封じた高輝度放電灯（希ガス蛍光灯等）の開発に心血を注ぎ十種類の特許を獲得した。キセノンやアルゴンの濃度測定にガスクロマトグラフを用いて手伝ったこともある、昨年、久しぶりにコンタクトがあり、ウシオ電機OB会機関誌「しらさぎ通信第四十三号」（二〇一四・一・一）に彼の業績が紹介された記事を拝読すると同時に驚嘆させられた。彼が開発した世界最大のキセノンランプ（水冷式三十kW）が国内で使われる世界に輸出されている事、宇宙開発にも貢献しているとの事である、特筆すべきは、一九七〇年春から秋に開催された大阪万国博覧会（EXPO一九七〇）

の岡本太郎設計「太陽の塔」の頭部から、サーチライトで夜空を照らしたキセノンランプは、彼が開発した成果でもある。近年では、二〇〇八年に開催された北京オリンピックにウシオ電機(株)キセノンピンスポットライト(三千kW)が開会式や閉会式等に使用され大活躍をした。

方法の一つ見つけよう」と、新しい事に困難はつきもの、自分でやってみること、何度でも」と励ましている。これらの言葉は、第一次南極越冬隊長であった西堀栄三郎先生(京大名誉教授)の著書「百の論より一つの証拠」「石橋を叩けば渡れない」を彷彿させる、全ての研究者・技術者に通じる。

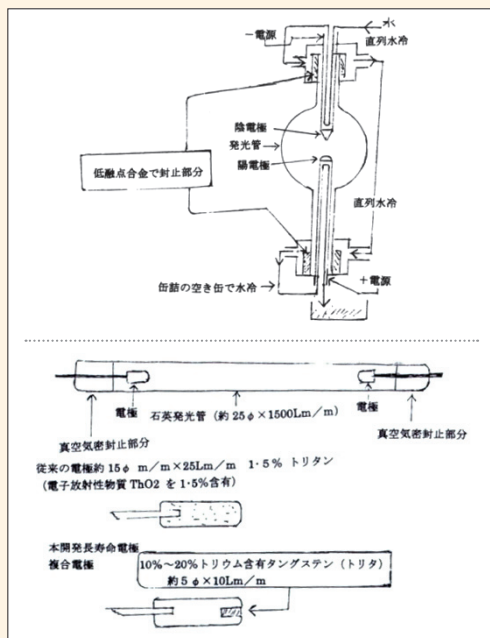


図1 上、水冷30kWキセノンランプの設計図  
図2 下、20kWキセノンロングアームランプ設計図

大西氏は、現役時

代から多芸多趣味な人物であり、姫路市内のダンスホールなどでアルバイトルにエレキギターやエレクトーン等を弾いていた。筆者の現役時代に自宅を訪れた時、多くの楽器を演奏して楽しませて欲待され、

なお、カメラ用ストロボランプや複写機用ランプなど多種のランプを開発し、その製造方法にも多くのアドバイスを實施して製造ラインに乗せてきた。退職後も会社からの要請で「大西ランプ教室」を開設して若手技術者の育成に取り組み会社に尽くした業績ははかりしれない。後輩たちに伝える言葉には、知識・知恵・技術・人間性のバランスを常に心がける事、できない方法を百探すより、できる

特許状も壁に掛けてあったのを思い出す。午後に、姫路市飾磨港に停泊するヤマハ発動機(株)のクルージングボートに乗せてもらい播磨灘を疾走した思い出は忘れられない。このボートは、当時、一千万円以上もする高価な船であり、海面を飛ば様に走るため運転席の隣で呆然としていた。紀伊水道まで行くと言うので怖くて押しとどめた、副業や残業手当や特許料で稼いだ資金で購入したとは言え、そ

の豪快な生き様には圧倒された次第である。社内での催しでも、楽器を弾きスピーカーを持参してのパフォーマンスは社員に評判との話を聞いて驚くやら呆れるやら、この時は、学生時代に空手で鍛えた体力が資本であり、飽くなき好奇心と製品開発の研究への原動力を感じて納得した次第です。



エレキギターを演奏する大西氏

加えて、退職後に、奥様と二人で「南京玉すだれ」等の隠し芸やジャズ演奏やシンセサイザーをアレンジした音楽を作曲して、老人養護施設や音楽演奏会等で自治会活動を続けている。又、庭先には、トマトやブドウやスイカを植えて老後を楽しむ姿は賞賛に値する。因みに、山陽新聞(二〇〇九.七.十二)の岡山都市圏版に「宙に浮くスイカ?」と称する記事が載った。東向きの庭壁に垂れ下がる強大なスイカ(重さ…十kg、直径…三十cm)が宙に浮く様に実り、近所の人を驚かせていると伝えている。今年から高齢化

したため休止するとの事であるが学生時代から学友達を驚かせて喜んでいたので思うと、後期高齢者となっても奇想天外な事をする趣味と実践欲は変わらないと、愉快になり感動しています。

今年の「カメラノコ会」は、十月中頃に箱根湯本温泉や芦ノ湖周辺を漫遊する予定です。関東地区の学友が多く参加できるように企画されたが、彼が久し振りに参加して隠し芸を披露して欲しいと期待しています。ボランティア活動に忙しい老後は、彼の人生観の成せばなる 成さねばならぬ 何事もを地で行く、古代からの吉備人の気概と推察します。奈良時代には、吉備真備(学者)が遣唐使として多くの知識を伝え朝廷の政治に影響を与えた、江戸時代に岡山藩三代城主の池田光政が本邦最初の庶民学校である「閑谷学校」を設立した、陽明学の熊沢蕃山を師として武士のみならず町民や農民にも学問を教え普及に努めた、庶民を育む土地柄は古代の吉備国や美作国の伝統かも知れない、幕末の思想家で尊皇攘夷の志士に影響を与えた頼山陽(思想家)も訪れ、明治時代には、備前の正宗白鳥(小説家)や播州の三木露風(詩人)も学んでいる。終わりに、現在、大西安夫氏は奥様と岡山県赤磐市桜が丘に住まわれているが、八十歳、九十歳と長生きして、高齢者と共に余生を楽しんで下さい。



## 定年退職に あたって

里見 潤

(昭和六十三年着任)



定年退職にあたり、まず、長年にわたりお世話になった立命化友会の会員の皆様に感謝の気持ちを伝えさせていただきたいと思います。本当にありがとうございました。

実際に定年を迎えてみると、不思議なもので、三十年近い立命館大学での教員生活がつかの間の夢であったかのようにすら感じられます。少し目を覚まし、頭に浮かんでくることをわざわざ書き綴ってみることにします。

本学にお世話になる前に西ドイツ政府奨学生として五年余りを過ごしたケルンにあるドイツスポーツ大学の循環器・スポーツ医学研究所は、私の教育・研究に携わる者としての基礎を育んでくれたかけがえのない場所でした。そこには世界中から多くの若手研究者が集まってきており、研究に対する非常な厳しさはもち

ろんのこと、人間的な温かさと活気にあふれていました。そこでのすべての経験がその後の私を支え続けてくれたように思えます。

一九八八年に本学理工学部に着任した私は、保健体育教員として実技系授業や講義などを夜間も含め週八コマ担当し、もっぱら学生の心身の健康の保持・向上に教育的側面から力を注ぐことになりました。二十年間を理工学部保健体育教員として、そして八年間を生命科学部教員として仕事をさせていただいたことになりました。生命科学部に移籍してからは、新設学部を軌道に乗せるために、少しでも役立てたらと考えて過ごしてきました。

定年を二年後に控えた時点での思いがけない学部長就任には本当に戸惑いましたが、これは野球で言うところのワンポイントリリーフの役割が求められているのであろうと勝手に解釈し、この局面で絶対に解決しなければならぬと考えられるいくつかの重要課題に集中して取り組むことにしました。また、学部の将来的な大きな発展のために、今は学部としてじっくりエネルギーを蓄えることが重要な時期であろうと考え、先生方ができるだけ落ち着いて教育と研究に精力的に取り組めるように、学部に安定、自由闊達な雰囲気、そして安心感をもたらすことを心掛けて運営にあたりました。学部長としては至らぬことが多々ありましたが、執行部に加わっていただいた先生方や事務長をはじめ、学部のすべての教職員に

支えられ、何とか現学部長の小島先生にバトンを渡すことができました。支えていただいたすべての方々に心から感謝しています。そして、今後の生命科学部および薬学部の素晴らしい発展を楽しみにしています。今思うことは、学生に励まされながらの楽しい教員生活だったということであり、そう思えることをありがたく思っています。

## 里見潤先生の

## ご定年退職にあたって

生命医科学科教授

堀 利行

里見潤先生は、一九七四年に東京教育大学体育学部をご卒業後、順天堂大学大学院を経て、西ドイツのケルンスポーツ大学大学院へ留学されました。スポーツ科学の博士の学位を取得されて、帰国後一九八八年に本学理工学部にて助教授として着任され、その後同学部教授、生命科学部教授を歴任されました。先生のご専門は、スポーツ教育とアスリートの運動生理学的研究であり、スポーツ科学に基づくトレーニング支援を通じて、本学のスポーツ振興、体育教育の質改善のみならず、我が国におけるスポーツ競技などのトップアスリートの競技力向上にも貢献されました。

里見先生と私とのお付き合いは、

二〇〇八年に生命科学部・薬学部が開設され、その中に生命医科学科が発足したときからです。当時、他大学から赴任してきて、本学のことを何も知らない私たち新任教員にとって、本学のご経験の長い先生には本当に大きな支えになっていただきました。新学科の草創期は、何かと問題の多い不安定な時期ですが、それを辛うじて乗り越えることができたのは、先生のご仁徳によるところが大きかったと思います。温厚な先生と話をすると、誰もが安心感を与えられ勇気づけられるのでした。

先生は、生命科学部の運営にも大きな足跡を残されました。二〇〇八年から二年間、生命科学部・薬学部の学生担当の副学部長をされたのに続いて、二〇一四年から約二年間、生命科学部長・研究科長の重責を担われました。副学部長であった私から見て、先生の運営方針は、和を大切にされる先生らしく極めて民主的であったと思います。山積する難しい問題に対して、先生は、不動の信念と寛容さをもって、一つ一つ丁寧に議論を尽くしながら解決していかれました。

先生は、ご退職の直前に一次的に体調を崩されていましたが、最近はお元気になられたと伺っています。学部長・研究科長の業務の疲れを癒やされた後、現在は、特任教授として生命科学部の教育に貢献していただいています。今後益々お元気で、生命科学部の発展を見守っていただきますようお願い申し上げます。

## 定年退職にあたって

澤村 精治

(昭和四十九年

化学科卒)



これまでに何度か定年退職される先生を送る言葉をこの立命化友会ニュースで書かせていただきましたが、いつの間にか書かれる立場になってしまい面はゆい感じです。

立命館大学に助手として着任したのは一九八三年十月ですが、立命館との関わりは、その前の大学院や学部から数えると、確か大学に入ってからすぐに大阪万博が開催されたかと思えます。

平成時代の同窓生が増えてきたので、当時の状況を少し紹介すると、一年生は化学科約百三十名で内女子三名(理工学部全体で五名!)と、今では考えられないアンバランス(現在は生命科学部でも約四十%! )。当然教授陣は三名ぐらいすぐ名前を覚えるので、この三名は授業を欠席できないとばかりのことばかり。ちなみに男子の出席率はせいぜい二十%

だったでしょうか。ほぼ100%の現代からは想像もつかないでしょう。授業に出ずどこへ? 当時も大学の周辺にゲームセンター?(雀荘)がありました。違うのは四名そろわないとゲームが出来ないこと。それでメンツが足りないといく教室から呼びだされてしまったよね。というような大学生活でも何と四年(?)で卒業していました。現代からみれば、どんな大学だったのでしょうか。今もって不思議です。現役の一・二年生にこの記事は読ませないでください。

研究室での研究活動は、まだ「安全管理」や「製造物責任」という概念がなく公害まき散らしの時代(の終わり頃?)だったので、比較的自由にやりたい放題でした。今のように試薬瓶に整理番号を貼るでもなく、すべて自己責任で、消防を呼ばない程度の火災で天井が消化器の泡だらけになったり、種火が消えた給湯器のガス爆発で耳が一瞬間こえなくなったり、徹夜明けで眠いまま電気乾燥器を修理しようとして感電して目が覚めたり、命に関わらない程度に存分に楽しませてもらいました。おかげで指導する立場になつてからは、安全に関して人一倍気を遣うようになりましたが、そういうえびわこくさつ・キャンパスに移転したとき、避難訓練で非常はしごの説明会があったのですが、参加したのは化学科と生物工学科の教員のみ。他の理工系学科からの参加はゼロでした。化学系学科の教員には、

衣笠時代のことがよほど身にしみたのでしよう。

なお、このニュースにある計報の鈴木啓三先生は小生の指導担当教授でした。定年したらご挨拶に伺おうとしていたのですが、残念です。

小生は四月からも特任教員ということ毎日元気に大学に通っています。大学に來られた際はお立ち寄りください。ありがとうございます。

## 澤村精治先生の

## ご定年退職にあたって

応用化学科教員

加藤 稔

澤村精治先生は、立命館大学の化学科で学ばれ、理工学部での助手、助教、教授、生命科学部の教授を経て、二〇一六年三月に定年退職を迎えられました。学内では理工学部学生主事、理工学研究科主事、評議員等の役職を務められました。

先生の専門分野は物理化学で、研究課題は「溶液の高圧物性」でした。特に、高圧力下の溶解度、高圧力下の液体の粘性測定に精力的に取り組まれました。先生が対象とする溶液系での高圧力実験は容易ではなく、この分野の進展の大きな足かせになっていました。先生が愛用されたピストン・シリンダー型の圧力容器

を維持して行くには、油まみれになって金属部品を我が子のように面倒をみる必要があります。先生は三十五年間それを続け、非常に貴重な高圧物性データを残されました。研究の世界においても国際競争は激しく、発表論文数は増加する一方ですが、先生の基礎物性データは、無数の論文に埋もれることなく、益々輝きを増していくのでないかと確信しています。

教育面では、物理化学系講義・実験科目を担当していました。先生のご指導を受けた卒業生の方々も大変多いかと思えます。先生は大変温厚で思慮深いお人柄ですが、学生実験等での実験値の取り扱いに関しては、熱心にかつ厳しく指導をされていました。そのギャップの大きさに驚かされた卒業生も多かったと思います。昨今、企業の存続にも関わるようなデータ改ざんのニュースがたびたび報道されています。先生の指導の確かさ・先見性をあらためて思い起こさせます。

澤村先生は、四月から特任教員として、教育および研究を継続されています。教育では、引き続き生命科学部の物理化学系講義および実験科目を担当されておられます。研究にも、意欲的に取り組まれています。立命館に長きに渡り貢献されてきた先生からは、まだまだ学ぶことが多くあります。どうぞ今後ともよろしくお願い申し上げます。



## 定年退職に

## あたって

土屋 友房

(平成二十三年着任)



私は岡山大学を定年退職後、五年間の約束で立命館大学薬学部教員として教育研究に携わらせていただき、本年三月末に退職しました。私にとって立命館での五年間はとても充実したものでした。立命館に心から感謝しています。

私が立命館大学に着任した二〇一一年は、立命館大学薬学部薬学科(六年制)ができて四年目でした。教職員の皆様のご努力により、教育・研究・運営体制が整いつつありました。私立大学薬学部薬学科の最大の使命は、将来社会で活躍し貢献する立派な薬剤師を養成することです。また、学生達は、薬剤師国家試験に合格することを第一の目的として入学してきます。私は今村薬学部長のもとで医療薬学教育担当

副学部長を仰せつかり、薬学部教職員の皆さまと協力し、立命館大学薬学部薬学科の学生が将来立派な薬剤師になることを念願しつつ教育に努めました。

私が在職した最後の三年間に三回の薬剤師国家試験がありました。年々合格率が上がり、立命館大学薬学部は私立大学薬学部のトップグループに名を連ねることができました。今後立命館がトップグループに入り続けることを祈っています。

さて、立命館は私学の雄の一つですが、私は立命館の教育について強く感じたことがあります。法人化以降国立大学は教育に非常に力を入れるようになりました。立命館大学薬学部の教員公募に応募された国立大学の教員が面接に来られ、「私はベスティーチャー賞をいただきました」と言われたことが何回かありました。多くの国立大学で教員の教育力向上の熱心な取組みと厳しい教育評価が行われているのです。立命館でも一部の学部で教員の教育力向上の取組みが行われているようですが、より良い教育のために薬学部と生命科学部も熱心に取り組むべきだと思います。

最後に、立命館大学薬学部と生命科学部の益々の発展を祈念しています。

## 土屋友房先生の

## ご定年退職にあたって

青戸 和弘

(平成二十七年薬学部卒)

土屋友房先生は、二〇一六年三月をもって、定年によりご退職されました。私は大学四年次後期からの約二年間、土屋先生が教授を務められた感染制御学研究室に所属し、先生の温かいご指導を賜りました。先生の研究室に入ることを選択したきっかけは、当時、私が研究室選別に迷っていたときに「社会で活躍できる力をこの研究室では身につけてほしい」という、学生の将来を見据えた温かい言葉に惹かれたためです。

研究室生活では、日々の研究や毎週行われるセミナーの準備などに追われ、決して楽なことばかりではありませんでした。しかし研究成果が出れば、積極的に学会発表をさせていただくなど、私が成長するチャンスを数多く与えてくださいました。また学会では、先生の前任である岡山大学の教え子が教員となり、実際に活躍されている姿を度々拝見しました。その先生方が土屋先生を慕う姿を見て、私は先生の人望の厚さ、そして偉大な先生のもとで学生生

活を過ごしているというありがたみを実感しました。

そのほかにも土屋先生は研究室員をよく食事に連れて行っていただき、静岡で学会があった際には鰻をご馳走してくださいました。また研究室旅行や先生のご自宅でのホームパーティーなど数多くのイベントがあり、とても楽しい研究生生活だったと今は懐かしく思っています。

私が先生にご指導いただいたことを一言で表現することは難しいですが、土屋先生のもとで過ごした二年間が、今社会人として働く私の糧となっていることは間違いありません。

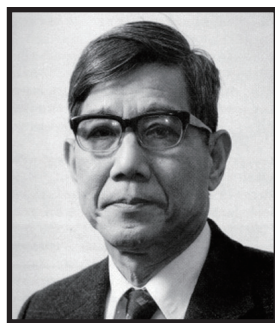
ご退職後、先生は静岡にお住まいになるとのことですが、くれぐれもご自愛いただくとともに、益々のご活躍をお祈り申し上げます。そしてまた静岡であの鰻をご馳走していただける日を楽しみにしております。



# 鈴木啓三先生を偲んで

谷口 吉弘

(昭和四十年 化学科卒)



鈴木啓三先生は、九十五歳の誕生日を目前にして平成二十七年十二月十三日、その生涯を閉じられました。ここに深く哀悼の意を表しますとともに、先生の長年の立命館での教育・研究と立命化友会へのご指導に対し心からの感謝を申し上げます。また、本年七月十七日に鈴木先生の奥様出席のもと、鈴木研究室の卒業生約五十名が京都に集まり、物理化学同窓会（偲ぶ会）を催し、鈴木先生の在りし日の思い出について旧交を温めました。

先生は三重県四日市のお生まれで、昭和二十年に京都帝国大学理学部化学科を卒業後、大学院特別研究生を経て、昭和三十年、立命館大学理工学部化学科助教授に就任され、昭和三十五年教授に、昭和三十九年から米国プリンストン大学へ一年余の研究生活を送られ、昭和六十一年に定年を迎えられました。また、昭和四十四年一月から三月にかけて、広小路の中川会館が全共闘学生により封鎖され、学園紛争が熾烈を極めた頃、理工学部長代理として紛争の真っ只中に明け暮れ、

物理的時間では測れない厳しく重いものを先生は感じられていたようで、お会いするたびに学園紛争当時のことをお話しされました。その後、理工学部長・理工学研究科長をお務めいただき、定年後も、非常勤講師として、十年間にわたり立命館大学文・社系学部の学生に一般教養「化学」の授業を担当の傍ら、短歌を勉強され、定年退職後の歌を収めた短歌集「曼珠沙華」を出版されています。

私が立命館大学理工学部化学科に入学した当時、衣笠学舎は理工学部のみで松林に囲まれた静か雰囲気、勉強するには実にいい環境でした。当時、入学と同時に各クラスを担当する指導教員制度があり、私どものクラスの指導教員は杉田先生で、コンパやハイキングに先生をたびたびお誘いし、学部生時代を楽しく過ごした思い出があります。卒業研究では鈴木先生がプリンストン大学留学中でもあり、鈴木研究室には個性豊かな五人が配属され、留守を預かる三代沢先生が研究指導をされることになりました。それぞれが独自の研究テーマで卒研を楽しんでいたようです。競馬好きの卒研生がいて、当時、「しんざん」が三冠馬になるのではとの前評判があり、馬券の買い方など事前学習後、菊花賞観戦に淀競馬場へ初めて出かけました。幸い、「しんざん」が三冠馬となり、帰路、馬券の当たり賞金で木屋町中華料理屋でコンパをした思い出があります。その後、鈴木先生の指導の下で、大学院修士・博士課程へと進み、立命館大学課程博士第一号をいただきました。また、土屋助手（鈴木研三代目助手・北村、三代沢）の後任として理工学部化学科助手として採用いただき、

鈴木先生の定年まで、同じ職場で教育・研究・管理運営上で指導を受けることができました。この間、理工学部の京都市衣笠から滋賀県草津への移転と理工学部拡充計画での生物工学科および生命科学部・薬学部の設置に関わり、理工学部長、生命科学部長として立命館大学理工学部および化学科の発展に関わったことは望外の幸せでした。二度の立命館大学での退職後、現在、平安女学院大学副学長、中学校・高等学校校長として、日々忙しい毎日を過ごしています。

父母を往きませし道、浄土への、その白道に咲きいし 曼珠沙華

(鈴木啓三著「曼珠沙華」より) 合掌

## 鯛と息子と

### 釣り天狗クラブ

湯浅 知子

(平成二年 化学科卒)

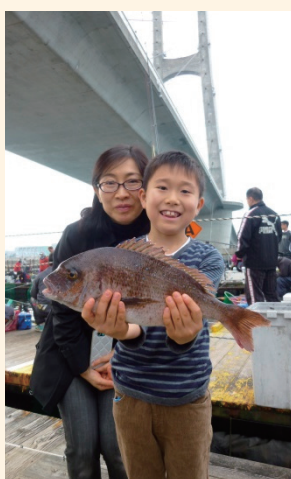
昨年の秋、第六回釣り天狗クラブに参加しました。これで三回目の参加です。

いつも息子と二人で参加させていただいています。(前回は、家族での参加でした。)私と息子にとって「釣り天狗クラブ」は、年に一度の楽しみなイベントです。

私にとっては、立木教授が退官されてから中々お会いできる機会が無くなった立木研の懐かしい集まりの一つ。息子にとっては、

中々体験出来ない「釣り」が出来る貴重な会です。と言うのも、私は小学生の時の川釣りで糸が絡まり続けたトラウマから釣りに興味がなく、息子を連れて行くことが出来なかったのです。この釣り天狗クラブに参加させていただくようになって、私が教えられなくても、周りの方々が親切にから十まで教えてくださり、親子だけでは体験できないような場所で釣りが出来ます。

昨年は、海の釣り堀で、息子は、めでたく念願の鯛やカンパチのような大物を釣り上げることができてとても良い思い出となりました。



また、釣りの後のBBQもとても楽しみです。懐かしい顔ぶれや、大先輩方と釣った魚をその場で食べたり、お酒を飲んだり。色々な話も出来て大満足の一日が過ごせます。毎日の仕事のストレスをリフレッシュ出来る貴重な時間が持ててありがたく思っています。

お世話係の目方君をはじめ事務局の方々には、大変ご迷惑をお掛けしていると思いますが、これからもっとたくさんの方に参加していただき長く続けられる会になれば良いなと思います。

今年も十月の会に参加できることを楽しみにしています。



会員だより

## 「私のしごと館」 始末記

木村 嘉勝

(昭和四十三年化学科卒)



平成十三年に広島労働局長を最後に労働省を退職し、中央労働災害防止協会に再就職(常務理事)していたが、厚生労働省から雇用能力開発機構の「私のしごと館」の副館長(館長は名誉職)を依頼された。この方面の仕事は全くの素人であったが、引き受けた。早速、京都府精華町の「私のしごと館」を訪れ、巨大な建物に驚きつつ、入場券を買って視察した。この館では、一流の職人が中学生や高校生に将来の職業を考えさせる重要なものと思った。平成十八年四月に副館長として着任したところ、テレビ、新聞が激しく「行政の無駄遣いの象徴(総工費五百六十億円、毎年十四億円赤字)」として取り上げた。この館の存続のため、京都府や地元の支援、政界、産業界、労働界、マスコミ関係者などに理解を求め、民間委託で生き残りをかけた。当時の厚生労働大臣はこの館の視察後に「廃止するのはいらない」とマスコミに発言し、紆

余曲折の事務折衝の末に閣議報告として「民間に運営を二年間委託し、第三者評価で廃止を含めて検討する」ことで決着した。民間委託の入札が行われ、某企業が落札して平成二十年八月末日に引き渡すこととなった。その間、現地採用の職員、企業の出向者、派遣労働者、職人など総数約五百人の辞職、各種の契約解除、業務の引継など対応を誤れば深刻な事態となる可能性もあった。八月末日に引継式を行って私から某企業の社長に「この館の鍵」を渡した。その数日後に「私のしごと館」の廃止の政府方針が示され、某企業も行革の大波に飲み込まれた。私は、職を失った多くの職員に配慮して任期途中であったが、その引渡の日をもって辞職し、現在、郷里(滋賀県)で小さな会社を創立して、平和に生活している。この館は、その後まもなく誰からも知られることなく静かに幕を引き、現在は京都府が国から無償で譲り受けて活用しているようだ。今思えば、この館の始末のため、実務のトップの副館長に「しがらみのない素人」を任命した当時の厚生労働省幹部の慧眼は流石である。(温泉研究会副会長)



## 企画運営委員会報告

委員長 伴野 清

(昭和四十二年化学科卒)

会員相互の交流と親睦を図る目的で各種企画を運営しておりますので、ご案内並びに運営状況について、報告させていただきます。

今年度も幹事の方々にお世話いただき、以下にご紹介する各活動が繰り広げられ、恩師の先生方、先輩方、同胞、ご家族、友人との交流を楽しむ絶好の機会になりました。

また、特別企画セミナーでは、本学名誉教授の中村尚武先生を講師にお招きして、「外国留学・外国出張で学んだ異文化について」と題してご講演を賜りました(詳細は四〇五ページ)。

今後とも皆様方のご協力をいただきながら、より一層充実した企画運営を続けてまいります。

それぞれの開催案内は、引き続き、事務局からお送りしておりますので、参加ご希望の方は、お気軽にご一報下さい。ご家族同伴も大歓迎です。

### 「企画運営委員会の開催」

① 平成二十八年二月二十八日(日)

茨木キャンパスにおいて、これまでの総括と今後の活動について打ち合わせを行いました。

② 平成二十八年六月十九日(日)  
朱雀キャンパスにおいて、本年度実施予定の企画運営テーマについて、意見交流を行いました。

### 第五回 温泉研究会総会

平成二十七年十月十七日～十八日

奥野年秀氏のお世話により山中グランドホテル(山中温泉)で開催されました。塚原俊文氏(昭和五十五年卒、北陸先端技術大学院大学・教授)による「加賀温泉郷」郷土史の講義を願った、流石に地元の地理・文化に明るく楽しく拝聴しました。

### 第三十一回 ハイキング

平成二十七年十月二十五日(日)

木全豊和氏にリーダー役をお願いし、「大文字山登山コース」で秋晴れに映えた京都市内の絶好の眺めを楽しみました。今回参加された初めてのメンバーも多く、総勢十四名、登山後は、打ち上げ親睦会を行い、大いに盛り上がりしました。





## 第三十五回 ゴルフ・懇親会

平成二十七年十月二十八日(水)

三上正勝氏・西村定氏にお世話いただき、好天に恵まれた秋空のもと、オンラインシガカントリークラブで開催され、十四名が豪華な賞品を目指して精一杯プレーされました。栄冠は野田博之氏の手により、おめでとうございます。



## 第八回 釣り天狗クラブ

平成二十七年十一月二十二日(日)

目片秀明氏のお世話により、「田尻海洋交流センター・海上釣堀」にて、魚釣りとバーベキューの楽しいひと時を過ごしました。参加者はご家族、お子達を含めて十四名、釣る人、飲む人、食べる人、まことにぎやかな一日となりました。釣りの経験なくとも、準備はまったく不

要です。釣りとバーベキューを楽しむ日に、皆様・ご家族様、お気軽にご参加ください。



## 第三十六回 ゴルフ・懇親会

平成二十八年三月二十三日(水)



幹事の三上正勝氏・西村定氏にお世話いただき、京都・宇治カントリークラブにおいて開催されました。当日は、風もなく穏やかに晴れてまさにゴルフ日和となりました。総勢十三名はまさに真剣勝負・・・?と言いたところですが、和気あいあい親交を暖めることができました。競技方法は新ペリア方式で行い、河村喜雄様が優勝されました。おめでとうございます。

## 第八回 温泉研究会総会・幹事会

平成二十八年四月二十三日・二十四日

奥野年秀氏のお世話により、宇多野ユースホステルで開催されました。幹



事会では本年度開催予定の総会計画、ニュース発行等の議題が討論されました。続いて、木村嘉勝様(元労働省広島

労働局長)から「労働安全衛生法について」話題提供をいただき、よい勉強をさせていただきました。

懇親会では、一泊と言うこともあり皆様ゆっくりくつろいでいただきました。

## 第三十二回 ハイキング

平成二十八年四月二十二日(金)

北尾舒彦氏・高岡滋雄氏にお世話いただき、参加者十六名と多くの皆様が、懐かしい衣笠学舎周辺から仁和寺・宇多野・広沢の池コースを散策しました。

衣笠学舎での学食&キャンパス見学は、当時の思い出がよみがえる記念すべき日になり、皆様ご満足の様子でした。よかったですね!





■ かじもと てつや  
梶本 哲也 先生



本年四月より薬学部教授として着任いたしました。専門分野は有機化学で、生物活性を有する糖鎖関連化合物の合成をメインテーマに研究を行っています。今まで、大学や研究所を渡り歩いてきましたが、これからは落ち着いて教育、研究に努め、立命館大学の発展に貢献できますよう、微力ながら精進致す所存です。ご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。

**略歴**  
一九八二年 徳島大学薬学部卒業。  
一九八四年 京都大学大学院薬学研究所修士課程修了（一九八九年薬学博士取得）。  
一九九〇年 スクリップス医学研究所（米国）博士研究員。  
一九九二年 理化学研究所 国際フロンティアフロンティア研究員。  
二〇〇四年 京都薬科大学助教授。  
二〇〇七年 同、准教授。  
二〇一六年 本学薬学部教授。

■ おりかさ ゆうき  
折笠 有基 先生



本年四月より生命科学部准教授として着任しました。専門分野は電気化学で、リチウムイオン二次電池、燃料電池を扱っています。特に固体内のイオン移動に焦点を当て、未来のエネルギーデバイス研究を通じて、本学の教育・研究活動を大きく発展できるようつとめていく所存でございます。立命化友会の皆様、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

**略歴**  
二〇一〇年 京都大学大学院人間・環境学研究科相関環境学専攻博士後期課程修了。  
二〇一〇年 京都大学産官学連携本部特定助教。  
二〇一一年 京都大学大学院人間・環境学研究科助教。  
二〇一六年 本学生命科学部応用化学科准教授。

■ むかい えり  
向 英里 先生



本年四月より生命科学部准教授として着任いたしました。専門分野は生理学、代謝学で、生活習慣病の主に糖尿病を研究しており、糖尿病の発症の成り立ちや有効な治療法ならびに予防について、幅広い視点から研究を行っていきたく考えています。本学の発展に貢献できますよう、教育・研究に精一杯努め参りたく存じます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

**略歴**  
二〇〇一年 京都大学大学院医学研究科博士課程修了。博士（医学）。  
二〇〇一年 日本学術振興会特別研究員。  
二〇〇三年 京都大学大学院医学研究科研究員。  
二〇〇五年 独立行政法人医薬基盤研究所研究員。  
二〇〇七年 京都大学大学院医学研究科研究員。  
二〇一二年 千葉大学大学院医学研究院講師。  
二〇一六年 本学生命科学部生命医科学科准教授。

■ やました しょうへい  
山下 翔平 先生



本年四月より生命科学部応用化学科助教として着任いたしました。専門分野は触媒・放射光化学で、主にニッケル触媒について放射光を利用した原子レベルでの反応解析から、触媒反応メカニズムを解明し、新規触媒の設計・創成を目指しています。本学での教育・研究の発展に貢献できるよう日々努力していきます。皆様のご指導ご鞭撻のほど、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

**略歴**  
二〇一六年三月 立命館大学生命科学研究科博士課程後期課程修了。博士（理学）。  
二〇一六年四月 本学生命科学部応用化学科助教。

# 新任の先生から一言

■ 吉澤 拓也 先生  
よしざわ たくや



本年度より、生命科学部生物工学科助教として着任いたしました。専門分野は構造生物学です。X線結晶構造解析法を軸として、タンパク質の機能を原子レベルで明らかにしたいと考えております。初めての教育現場で慣れないことも多いですが、教育・研究共に精進して行きたいと思えます。立命化友会の皆さま、どうぞよろしくお願い申し上げます。

**略歴**  
二〇〇七年 信州大学理学部卒業。  
二〇一二年 横浜市立大学大学院博士後期課程修了。博士（理学）。  
二〇一二年 テキサス大学サウスウェスタン医学センター博士研究員。  
二〇一六年 本学生命科学部生物工学科助教。

■ 笠原 浩太 先生  
かさばら こうた



本年四月より生命科学部助教として着任いたしました。専門分野は計算生物学で、情報科学的なアプローチと計算物理学的なアプローチを融合的に活用した生体分子間相互作用の原理解明を目指しています。これまでは研究に専念してきましたが、本学では教育についても勉強させていただきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

**略歴**  
二〇一〇年 東京大学大学院新領域創成科学研究科 博士課程後期課程修了。博士（科学）。  
二〇一〇年 東北大学大学院情報科学研究科特任研究員。  
二〇一三年 大阪大学蛋白質研究所特任研究員。  
二〇一六年 本学生命科学部生命情報学科助教。

■ 村澤 秀樹 先生  
むらさわ ひでき



生命科学部助教として本年四月に着任いたしました。社会医学、特に保健医療政策の評価を主とした研究を行っております。昨年夏までの十年余、厚生労働省に事務官として勤務していたため、教育・研究についてはまだ駆け出しの身です。これまでの経験を活かした独自の視点で、本学に貢献できるよう努力してまいりたいと思えます。どうぞよろしくお願い致します。

**略歴**  
一九九六年 日本大学農獣医学部卒業。  
一九九八年 東京大学大学院修士課程修了。  
二〇〇一年 厚生労働本省入省。  
二〇一五年 筑波大学大学院修了。博士（学術）。厚生労働省退職。  
北海道大学博士研究員。  
二〇一六年 本学生命科学部生命医科学科助教。

■ 片山 将一 先生  
かたやま しょういち



本年度四月より薬学部助教として着任致しました。専門分野は生化学、分子生物学であり、遺伝性疾患に関与するプロテインキナーゼの研究を行っています。本学の教育・研究において少しでも貢献できるよう精一杯取り組む所存です。どうか皆様のご指導、ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い致します。

**略歴**  
二〇一〇年 香川大学農学部応用生物科学科卒業。  
二〇一二年 香川大学大学院農学研究科修士課程修了。  
二〇一五年 愛媛大学大学院連合農学研究科博士課程修了。博士（農学）。  
二〇一五年 日本学術振興会特別研究員（PD）。  
二〇一六年 本学薬学部助教。



北澤 創一郎 先生  
きたざわ そういちろう



本年四月より薬学部助教として着任いたしました。専門分野は、構造生物学で、タンパク質を対象に、主にNMRを用いた「立体構造決定」、「構造の揺らぎ」、「安定性」について研究をしております。本学の教育、研究活動の発展に貢献できるように、一生懸命取り組んでまいりたいと思います。皆様の御指導御鞭撻の程、宜しくお願い致します。

脇岡 雅宣 先生  
ひじおか まさのり



本年四月より薬学部助教として着任いたしました。専門分野は神経科学・薬理学で、これまでに神経変性疾患モデル動物を用いた病態解析および治療薬の探索を行ってきました。本学着任後も神経変性疾患に焦点を当てた研究を継続していきます。本学の研究・教育に貢献できるよう努めますので、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

正木 聡 先生  
まさき そう



本年四月より薬学部助教として着任いたしました。専門は分子生物学で、疾患に関連するシグナル伝達の制御やスプラインシングアイソフォームの生理的意義について研究を行っています。薬学部の教育・研究の発展に貢献できるよう、鋭意に取り組んでまいりますので、よろしくお願い致します。

森本 功治 先生  
もりもと こうじ



本年4月より、薬学部の助教として着任致しました森本功治です。専門分野は有機化学で、新規有用反応の開発と薬物活性化合物の合成研究を行っています。本学では薬学部の発展教育、研究を通じて、微力ではありますが本学の更なる発展に貢献したいと考えております。皆様のご指導・ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

#### 略歴

二〇一四年九月 立命館大学理工学  
研究科博士課程修了(理学)。  
二〇一五年二月 レンセラー工科大  
学 CBIS 博士研究員。  
二〇一六年四月 本学薬学部助教。

#### 略歴

二〇一六年三月 熊本大学大学院薬  
学教育部博士後期課程修了。博  
士(薬科学)。  
二〇一六年四月 本学薬学部助教。

#### 略歴

二〇一二年 京都大学大学院 医学  
研究科医学専攻 博士課程修了  
博士(医学)。  
二〇一二年 京都大学大学院 医学  
研究科メディカルイノベーション  
センター特定研究員。  
二〇一六年 本学薬学部助教。

#### 略歴

二〇〇九年三月 大阪大学大学院薬学  
研究科博士後期課程修了 博士  
(薬学)。  
二〇〇九年四月 立命館大学立命館グ  
ローバル・イノベーション研究  
機構(RIGIRO)博士研究員。  
二〇一三年四月 立命館大学 立命館  
グローバル・イノベーション研  
究機構助教。  
二〇一四年四月 立命館大学総合科学  
技術研究機構助教。  
二〇一六年四月 本学薬学部助教。

## 同窓会開催報告

昭和四十二年卒 有志同窓会

去る十月十二日(水)・十三日(木)に  
エクシブ京都八瀬離宮(京都市左京区)  
にて開催致しました。十六名の参加でした。  
卒業して五十年、中には姿、形、風貌  
が変わり、町ですれ違っても分からない  
方達もおられました。

美味しい料理とお酒との親睦会が始ま  
れば、「アッ」と言う間に、懐かしい青春  
時代に戻り、話に花を咲かせ、和気あい  
あいと旧交を温めることができました。

翌日は京都散策とゴルフでした。お互  
いに元気をもらった楽しい二日間でした。

(足立勤)



平成27年10月1日から平成28年9月30日の間に、ご逝去の連絡を頂いた方々です。  
心よりご冥福をお祈り申し上げます。

東岡	山内	河合	伊藤	荒井	鈴木	山本	清原	佐竹	三宅	吉原	松村	秋田	北村	佐藤	籠谷	森脇	川村	中森	千石	石川	中川	石井	谷	脇阪	北村	飯田	中森	鈴木	鈴木
憲治	治清	直行	信輝	憲雄	章	行隆	紘	正治	二郎	三男	準吉	克彦	忠昭	寛晃	昭一	健	三郎	恒雄	享	俊雄	隆夫	巍	昭	二郎	嘉宏	泰三	健彦	博	啓三
(昭46年卒)	(昭45年卒)	(昭45年卒)	(昭43年卒)	(昭40年卒)	(昭40年卒)	(昭39年卒)	(昭39年卒)	(昭37年卒)	(昭36年卒)	(昭35年卒)	(昭33年卒)	(昭32年卒)	(昭32年卒)	(昭32年卒)	(昭31年卒)	(昭30年卒)	(昭28年卒)	(昭25年卒)	(昭25年卒)	(昭24年卒)	(昭24年卒)	(昭24年卒)	(昭24年卒)	(昭24年卒)	(昭23年卒)	(昭23年卒)	(昭22年卒)	(昭20年卒)	(旧教員)

## 物故者

野口 裕臣 (昭46年卒)  
吉岡 栄二 (昭57年卒)  
石濱 明花 (平21年卒)  
(敬称略)

## 立命化友会役員異動

(敬称略)

### 逝去

名誉会員  
鈴木 啓三 (昭30年着任)

### 変更

### 学内幹事

### 新任

梶本 哲也 (平28年着任)

折笠 有基 (平28年着任)

向 英里 (平28年着任)

山下 翔平 (平28年着任)

吉澤 拓也 (平28年着任)

笠原 浩太 (平28年着任)

村澤 秀樹 (平28年着任)

片山 将一 (平28年着任)

北澤 創一郎 (平28年着任)

北岡 雅宣 (平28年着任)

正木 聡 (平28年着任)

森本 功治 (平28年着任)

### 退任

今中 忠行 (平20年着任)

池谷 幸信 (平20年着任)

### 年度幹事

### 退任

九鬼 敏隆 (昭28年卒業)

## 編集後記

今年二月、初めて茨木  
市防災公園「岩倉公園」  
と隣接する立命館大学い  
ばらきキャンパス(OI  
C)にて、立命化友会幹  
事会を開催し終了後、特  
別企画セミナー、懇親会  
を行いました。

昨年十二月鈴木啓三先  
生がご逝去されました。  
多年立命化友会の発展に  
ご尽力いただき感謝申し  
上げますとともに心から  
ご冥福をお祈り申し上げ  
ます。

八月六日、初めて南米  
のリオデジャネイロで第  
三十一回夏季オリンピック  
ク大会が開幕、平和と地  
球再生への願いが込めら  
れた。かつての日本の「お  
家芸」といわれた柔道、  
体操、水泳がメダルを獲  
得し新たな勇気と感動を  
もたらした。また、八月  
十一日は祝日「山の日」、  
山に親しむ機会を得て山  
の恩恵に感謝し、会員各  
位自然と親しみ、未来に  
つなげていこう！(金川)

＝第5号＝

発行日：2016年11月1日

編集：立命化友会事務局

編集責任者：金 川 義 孝

〒525-8577 滋賀県草津市野路東1-1-1  
立命館大学生命科学部事務室内  
TEL.077-561-2658 FAX.077-561-2659  
e-mail:kayukai@st.ritsumei.ac.jp



## 立命化友会 2015年度 事業報告

### I. 諸事業

1) 2015 年 3 月卒業生名簿作成	2015 年 6 月
2) 立命化友会ニュース(第4号)発行	2015 年11月
3) 全会員への通信	2015 年11月
4) 在校生ソフトボール大会	2015 年11月
5) 卒業・修了パーティー	2016 年 3 月 22 日
6) ゴルフ懇親会の開催	
・第 35 回	2015 年10 月 28 日
・第 36 回	2016 年 3 月 23 日
7) 立命化友会ハイキングの開催	
・第 30 回	2015 年 4 月 26 日
・第 31 回	2015 年10 月 25 日
8) 釣り天狗クラブ	
・第 5 回	2015 年 4 月 5 日
・第 6 回	2015 年11 月 22 日
9) 温泉研究会	
・第 7 回幹事会	2015 年 4 月 23 日
・臨時幹事会	2015 年 9 月 5 日
・温泉研究会ニュース(第1号)発行	2015 年 9 月 5 日

### 10) 特別企画セミナー

・第 3 回	2016 年 2 月 28 日
--------	-----------------

### II. 諸会議

1) 幹事会	
・第 1 回	2015 年 6 月 28 日
・第 2 回	2016 年 2 月 28 日
2) 企画運営委員会	
・第 1 回	2015 年 6 月 28 日
・第 2 回	2016 年 2 月 28 日
3) 立命化友会ニュース編集委員会	
・第 1 回	2015 年 6 月 21 日
・第 2 回	2015 年 9 月 20 日

### III. 支部活動

(関東支部、東海支部、中国・四国支部) 活動なし

## 立命化友会 2015年度 決算

### 一般会計

(単位:円)		
〈収入の部〉	予算額	執行額
前年度繰越金	3,103,491	3,103,491
会 費 (学生)	4,100,000	4,100,000
寄 付 金	10,000	224,310
雑 収 入	1,000	319
合 計	7,214,491	7,428,120 ①
〈支出の部〉	予算額	執行額
事業等補助金	300,000	125,012
地域別活動推進費	250,000	0
会 議 費	150,000	30,697
印 刷 費	800,000	575,382
郵 送 費	1,600,000	624,886
人 件 費	1,000,000	811,627
事務局費	300,000	120,654

雑 費	50,000	0
拠出金(連絡協議会へ)	200,000	200,000
在学生活動援助費	360,000	360,000
振込み手数料	10,000	2,700
予 備 費	2,194,491	0
合 計	7,214,491	2,850,958 ②

収入支出差引残額(①-②) 4,577,162

### 応化会基金

	予算額	執行額
繰 越 金	2,298,059	2,298,059
合 計	2,298,059	2,298,059

## 立命化友会 2016年度 事業計画

### I. 諸事業

1) 2016 年 3 月卒業生名簿作成	2016 年 6 月
2) 立命化友会ニュース(第 5 号)発行	2016 年 11 月
3) 全会員への通信	2016 年 11 月
4) 在校生ソフトボール大会	2016 年 11 月
5) 卒業・修了パーティー	2017 年 3 月 22 日
6) ゴルフ懇親会の開催	
・第 37 回	2016 年 10 月 19 日
7) 立命化友会ハイキングの開催	
・第 32 回	2016 年 4 月 22 日
・第 33 回	2016 年 11 月 25 日
8) 釣り天狗クラブ	
・第 7 回	2016 年 10 月 16 日
9) 温泉研究会	
・第 8 回幹事会	2016 年 4 月 23 日
・温泉研究会ニュース(第 2 号)発行	2016 年 10 月 1 日
・第 6 回総会	2016 年 11 月 13 日

### 10) 特別企画セミナー

・第 4 回	2017 年 2 月 26 日
--------	-----------------

### II. 諸会議

1) 幹事会	
・第 1 回	2016 年 6 月 19 日
・第 2 回	2017 年 2 月 26 日
2) 企画運営委員会	
・第 1 回	2016 年 6 月 19 日
・第 2 回	2017 年 2 月 26 日
3) 立命化友会ニュース編集委員会	
・第 1 回	2016 年 6 月 5 日
・第 2 回	2016 年 9 月 11 日

### III. 支部活動

(関東支部、東海支部、中国・四国支部) 未定

## 立命化友会 2016年度 予算

### 一般会計

(単位: 円)

〈収入の部〉	予算額
前年度繰越金	4,577,162
会 費 (学生)	3,750,000
寄 付 金	10,000
雑 収 入	1,000
合 計	8,338,162

〈支出の部〉	予算額
総会開催費	0
事業等補助金	300,000
地域別活動推進費	250,000
会 議 費	150,000
印 刷 費	800,000
郵 送 費	1,600,000

人 件 費	1,000,000
事 務 局 費	300,000
雑 費	50,000
拠出金 (連絡協議会へ)	200,000
在学生活動援助費	360,000
振込み手数料	10,000
予 備 費	3,318,162
合 計	8,338,162

### 応化会基金

残 額	2,298,059
合 計	2,298,059